

第1章 須恵町の現況と課題

1. 都市づくりの課題を考える視点

都市づくりの課題は、まちの暮らし方や使い方に係る事項であり、単一分野のみで解決を図ることができないことが多いことから、分野横断的に課題を整理するため5つの視点を設定しました。

この5つの視点に基づき、本町の現況分析結果や町民アンケート調査結果、ワークショップで寄せられた意見をもとに、本町の強みと弱みから課題を整理しました。

都市 構造	①都市構造:まちの基盤 人口構造や都市の骨格となるインフラなど
都市 生活	②都市生活:まちの暮らし 住みやすい、住み続けたいと思える生活環境など
都市 活力	③都市活力:まちのエンジン 産業や地域のコミュニティ、人々の活力・交流など
都市 環境	④都市環境:まちの豊かさ 自然環境や景観、歴史資源など
都市 経営	⑤都市経営:まちの使い方 持続可能な町の運営、公共施設の維持管理、防災など

■都市づくりの課題を考える5つの視点

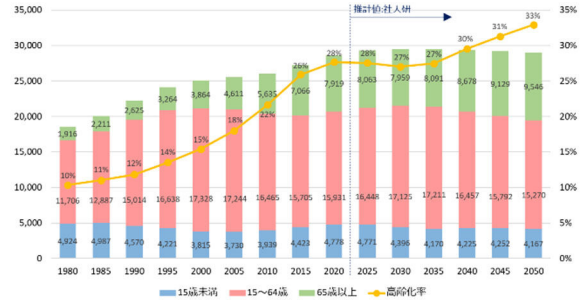
2. <都市構造>に関する現況と課題

● 須恵町の強み

- これまでの人口は増加傾向で推移しており、今後も安定的に推移する見通しとなっています。⇒図①《資料編 P.63》
- 福岡都市圏に属し、福岡市内や交通の要衝である博多駅、福岡空港まで車で 30 分圏内とアクセスが良好です。
- 九州自動車道が町を縦断し、須恵スマートインターチェンジが設置されていることから、広域交通のアクセス性に恵まれています。
- 福岡都市近郊かつ、若杉山に代表される豊かな自然に恵まれています。

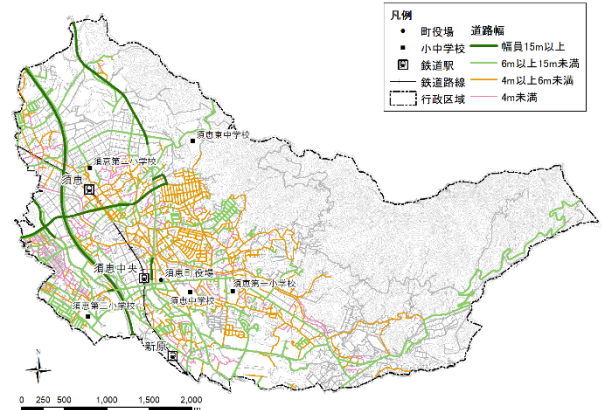
● 須恵町の弱み

- 高齢者人口が増加傾向にあり、高齢化率も上昇を続ける見通しです。⇒図①《資料編 P.63》
- 幹線道路を中心に渋滞が常態化しており、須恵中央交差点は、県内の主要な交通渋滞箇所となっています。⇒《資料編 P.72》
- 町内の道路の多くが幅員 6.0m未滿となっており、幅員 4.0m未滿の道路も多く見られます。特に、町西部の旧産炭地域や新原駅周辺において、狭あい道路が多く見られます。⇒図②《資料編 P.72》
- 用途地域外において農地転用が進んでおり、農地面積は減少傾向にあります。⇒図③《資料編 P.69》、④《資料編 P.66》
- 用途地域外において、用途の混在が見られます。⇒《資料編 P.65》



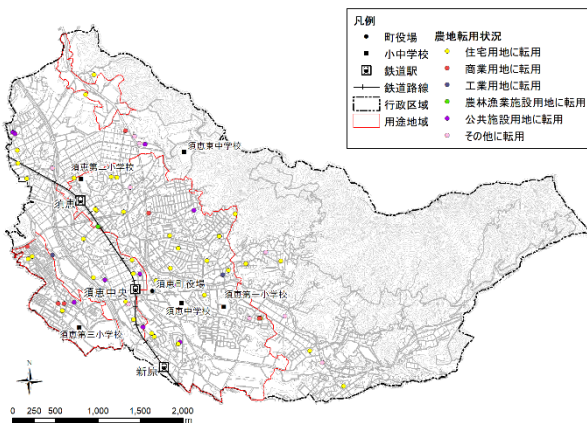
図① 須恵町の人口動向

(資料:国勢調査(昭和55年~平成27年)、
国立社会保障・人口問題研究所推計(令和5年))



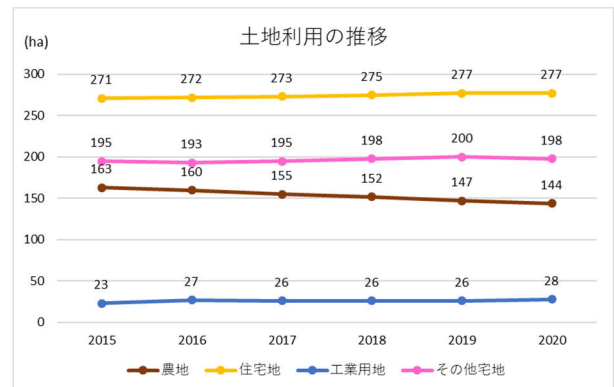
図② 須恵町の道路幅員

(資料:須恵町都市計画基礎調査(令和元年))



図③ 農地転用の状況

(資料:福岡県都市計画基礎調査(令和3年))



図④ 土地利用の推移

(資料:福岡県土地利用動向調査(平成29年~令和3年))

<都市構造>に関する課題

● 将来を見据えた持続可能な土地利用が必要

- ・将来的な人口減少社会の到来を見据えた土地利用が必要です。
- ・用途地域外における開発行為については、自然的な土地利用と都市的な土地利用の調和を図ることが必要です。
- ・特に、既に一定の都市機能が集積している駅周辺の使い方を検討することが必要です。

● 道路環境の改善が必要

- ・慢性的な交通渋滞の緩和や、狭あい道路の改善に向けた取組が必要です。

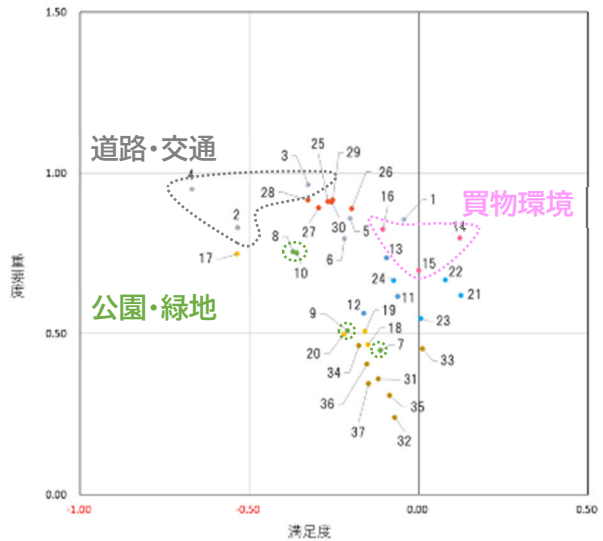
3. <都市生活>に関する現況と課題

● 須恵町の強み

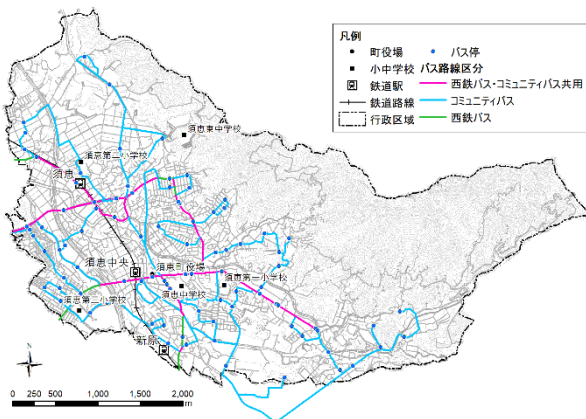
- スマートインターチェンジ周辺に商業施設が集積しているほか、町外の大型ショッピングモールにも車で約10分とアクセスが良好です。
- 住民アンケート調査において、買い物環境に関する満足度が比較的高くなっています。⇒図①《資料編 P.112》
- JR香椎線が町内を縦断しており、町内に3駅が設置されています。バス路線は、福岡都市圏と町内を結ぶ西鉄バスと町内を網羅するコミュニティバスが運行しています。⇒図②《資料編 P.74》、③《資料編 P.75》

● 須恵町の弱み

- 狭い道路や街灯の少ない暗い道路が多く見られます。慢性的な渋滞により狭い生活道路が抜け道となっており、スピードをあげて生活道路に進入する車も見られます。
- 住民アンケート調査やワークショップでは、子どもたちが身近に遊べる公園や多世代が楽しめる公園を望む声が多く聞かれました。

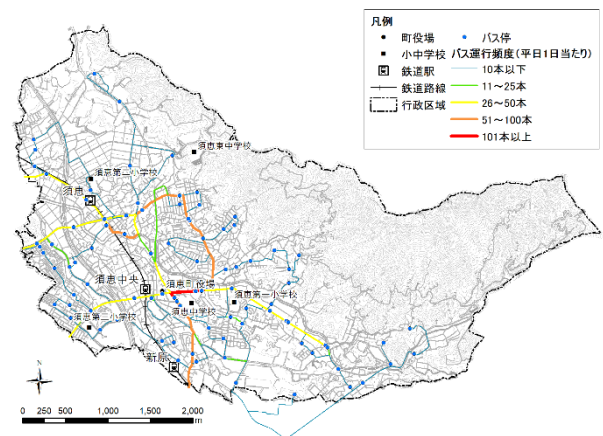


図① 満足度・重要度の分布
(資料:令和3年須恵町住民アンケート調査)



図② バス路線

(資料:須恵町都市計画基礎調査(令和元年)、町提供資料(令和3年))



図③ バス運行頻度

(資料:須恵町都市計画基礎調査(令和元年)、町提供資料(令和3年))

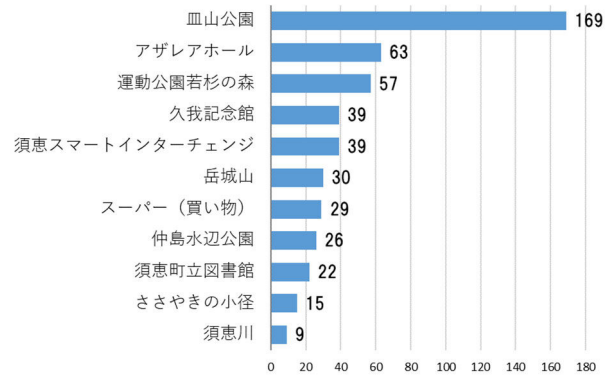
<都市生活>に関する課題

- **近隣都市と連携しながら、須恵町内に必要な“利便性”を確保することが必要**
 - ・福岡市や近郊都市の大型商業施設へのアクセス性を踏まえ、それらの近隣都市と連携しながら買い物環境を維持・充実させるとともに、公共交通網との相互補完により、本町に必要な利便性を確保することが必要です。
- **安全・快適に移動できる道路環境・都市構造を実現することが必要**
 - ・狭い・暗いといった危険な道路環境を改善するとともに、充実した公共交通網を活かし、誰もが安全・快適に移動できる環境を確保することが必要です。
 - ・道路環境の改善にあたっては、整備改善の優先度を検討し、メリハリのある道路整備を行うとともに、必要に応じて主要な施設・機能の配置について検討することが必要です。
- **子ども達が日常的に遊べる身近な公園の整備・機能充実が必要**
 - ・子ども達が日常的に遊べる公園の整備・機能充実に向けて、求められる機能や施設、公園の規模等を検討することが必要です。

4. <都市活力>に関する現況と課題

● 須恵町の強み

- これまでの人口は増加傾向で推移しており、今後も安定的に推移する見通しとなっています。(再掲)
- 福岡市内や広域交通ネットワークへのアクセス性の良さから、工業用地としての需要が高く、用途地域外における工業用地の開発も見られます。
- 住民アンケート調査において、須恵町の好きな場所(親しみを感じる、誰かに自慢したくなる場所)として、皿山公園を挙げる声が多く聞かれました。⇒ 図① 《資料編 P.97》

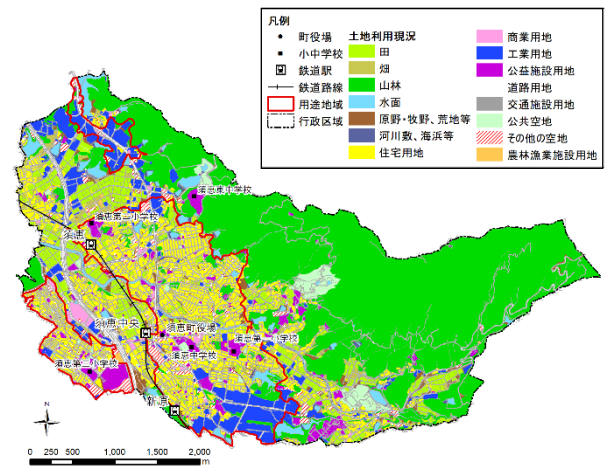


図① 須恵町の好きな場所

(資料: 令和3年須恵町住民アンケート調査)

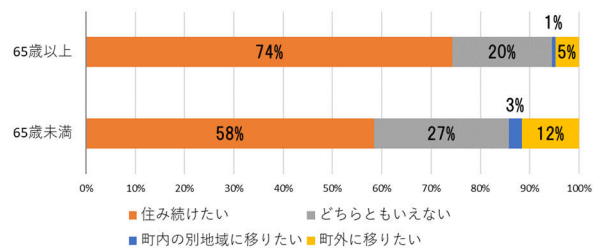
● 須恵町の弱み

- 用途地域外において、住宅系用途と工業系用途の混在が見られます。⇒ 図② 《資料編 P.65》
- 福岡市をはじめ、町外への流出者数が多くなっています。⇒ 《資料編 P.64》
- 住民アンケート調査において、町内で働ける企業や事業所の優先度が高くなっています。⇒ 《資料編 P.112》
- 町域の約 9.6%を田畑が占めていますが、農業従事者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地の発生が懸念されます。⇒ 《資料編 P.65》
- 人を呼び込む“目的地”になる場所や“須恵町ならではの魅力が少ないと感じる町民の意見が多く見られます。
- 住民アンケート調査において、年齢が低いほど「町外に移りたい」人が多い傾向が見られます。65歳未満で「町外に移りたい」と考える人は、12%と1割を超えています。⇒ 図③ 《資料編 P.104》



図② 土地利用現況

(出典: 須恵町都市計画基礎調査(令和元年))



図③ 須恵町の定住意向

(資料: 令和3年須恵町住民アンケート調査)

<都市活力>に関する課題

● 須恵町ならではの魅力づくりが必要

・町民に親しまれている皿山公園や須恵駅などの拠点的な場所を活かし、“須恵町ならではの”魅力をつくることで、外から人を呼び込み、まちのにぎわいを生み出す必要があります。

● 町の活力を生む“働く場”の創出が必要

・サービス業を中心とする都市機能をまち中心に誘導することが必要です。

● 現在から将来にわたっての需要を見据えた計画的な土地利用が必要

・用途地域外における開发行為の状況や工業系用途の需要、農業従事者の減少などの現況を踏まえながら、将来的な人口減少社会の到来を見据えた計画的な土地利用が必要です。

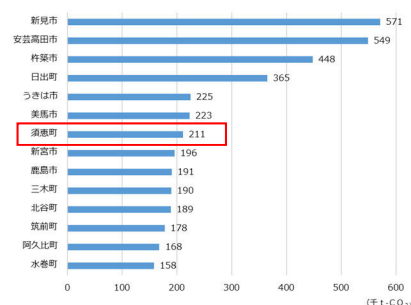
5. <都市環境>に関する現況と課題

● 須恵町の強み

- 都市近郊かつ、自然豊かな環境に恵まれており、若杉山や須恵川は、須恵町のシンボルとして古くから人々に愛されています。
- 若杉山や旧国鉄志免炭鉱跡地(ボタ山)を見上げる眺めや、山から街並みを見下ろす景色は、須恵町の魅力のひとつとして愛されています。
- 人口規模が同程度の自治体の中では、CO₂の排出量は比較的小さい状況です。⇒図①《資料編 P.87》

● 須恵町の弱み

- 町西部の旧産炭地域においては古くからの長屋や狭小な敷地も多く、空き家対策の実施が難しい状況です。
- 住民アンケート調査やワークショップでは、須恵川をもっときれいにしてほしい、昔のように川遊びがしたいといった意見が聞かれました。

図① 人口規模が同程度の自治体におけるCO₂排出量

(資料:自治体排出量カルテ(令和4年))

<都市環境>に関する課題

● 須恵町らしい景観や自然を守り、活かすことが必要

- ・維持管理の手法やコストを踏まえた、沿道緑化や街路樹、花壇のあり方の検討が必要です。
- ・住民との協働による景観形成や緑づくりの取組が必要です。
- ・住宅地や商業地、工業地など、土地利用に応じた緑化や景観形成が必要です。
- ・カーボンニュートラルの実現に向けて、地域における再生可能エネルギーの導入等の取組が必要です。

● 空き家・空き地問題の解消が必要

- ・空き家の解消や発生予防、空き地の適正な維持管理について検討することが必要です。

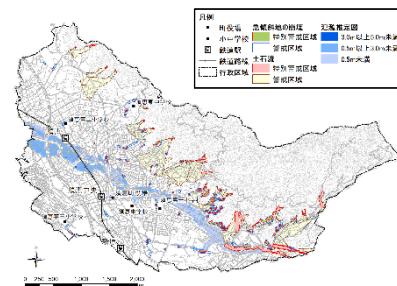
6. <都市経営>に関する現況と課題

● 須恵町の強み

- これまでの人口は増加傾向で推移しており、今後も安定的に推移する見通しとなっています。(再掲)

● 須恵町の弱み

- 公共施設の老朽化が進行しています。
- 土砂災害や河川浸水、ため池浸水といった災害リスクがあります。⇒図①《資料編 P.84》
- 農業従事者の減少に伴い、農業用に利用しないため池の発生が考えられます。



図① 災害リスクの状況

(資料:町提供資料(令和3年))

<都市経営>に関する課題

● 計画的な公共施設の整備・維持管理、機能強化が必要

● 防災機能の整備・強化が必要

● 町民との協働や官民連携によるまちづくりが必要

● 災害リスクを踏まえた安全・安心な都市づくりが必要

- ・開発⇔防災⇔環境保全のバランスに配慮した土地利用が必要です。
- ・ハード、ソフト両面による防災施策が必要です。

● 農業用に利用されなくなったため池のあり方の検討が必要

- ・貯水池としての防災機能を踏まえ、ため池のあり方(残す/埋設する)を検討する必要があります。
- ・ため池を残す場合は、周辺住民との連携を含む維持管理の手法や体制を検討する必要があります。
- ・ため池を埋設する場合は、跡地の利活用について検討する必要があります。

このほか、本町の現況に関する主なデータは、巻末「第二次須恵町都市計画マスタープラン【資料編】」に掲載しています。